

## 平成 27 年度南予地方局予算の実施状況

- 1 予算事項名 南予産ヒノキ等利用促進事業費
- 2 事業期間 平成 27 年度～平成 28 年度
- 3 所 管 産業経済部森林林業課
- 4 事業概要

南予地域に豊富に存在するヒノキの森林資源を有効活用して、木製品等への利用を促進するとともに、地域での薪の利用システムを構築し、新たな収入源を確保することによって、所得向上及び雇用の場を創出し、南予地域の活性化を図る。

	平成 27 年度
予算額	701 千円



### 5 事業実施状況

#### (1) 宇和島高等技術専門校連携事業

県内で唯一の木エクラフト科を有する宇和島高等技術専門校(以下、専門校)と連携し、ヒノキを利用した木製品をデザイン・作製して、宇和島の玄関口であるJRの駅に設置することにより、南予産ヒノキのPRと同時に新たな活用方法について提案を行うとともに、ヒノキ材の特性や間伐材利用の意義など森林林業について理解のある木工技術者の養成を行った。



#### ア. 連絡協議会の開催

南予産ヒノキを活用した木製品の開発、展示、活用方法について検討を行った。

#### イ. ヒノキ加工技術者養成研修会の開催

専門校の訓練生を対象に愛媛県林業研究センターや地域産材の加工利用等に関する研修を実施し訓練生から好評を得た。



#### ウ. 南予産ヒノキ製品の作製及び設置

専門校クラフト科生徒がデザイン、作製した南予産ヒノキベンチをJR宇和島駅ホームに設置し、翌 3 月 15 日(火)、南予地方局長はじめ、JR宇和島駅長、専門校長他約 60 名の参加を得て、除幕式を執

行

った。当日は、報道機関の取材が多数あり、事業のPRが広くなされた。

#### エ. 製品利活用検討会の開催

H28 年 3 月 25 日の連絡協議会において、平成 27 年度の事業実施報告及び 3 月 16 日～24 日の間、主にJR利用者を対象に、南予産ヒノキの需要拡大等に関する



るアンケート調査を実施した結果を基に、ヒノキベンチの改善点や木製品のニーズについて分析し、今後の製品開発及び消費拡大について検討を行った。

アンケート結果からは、南予産ヒノキベンチは好評であり、回答者の9割以上の方がヒノキ木製品を使ってみたいと回答があった。使いたい木製品としては、飾り棚やベンチ、木製おもちゃ、まな板などが挙げられた。



## (2) 薪利用促進事業【ゼロ予算】

自治体における薪ボイラーの導入(H26 祓川温泉、H27 ぼっぼ温泉)を契機に、農山村における所得機会と雇用の創出を図るため、市町において取り組む地域・家庭レベルでの木質エネルギーの利用普及・地産地消化の取組みに対し、専門的な指導助言等を行う事業であり、市町と連携して、次の項目について実施した。

### ア. 薪利用エコストーブ普及事業

松野中学校にてエコストーブの紹介を行い、灯油等に替わる燃料としての森林資源の利用法について普及啓発を行った。

### イ. 地域資源の現状、薪需要等の調査

市町と連携し、薪として利用可能な森林資源量及び温泉施設における薪ボイラーなどの大口需要、家庭における薪ストーブなどの小口需要量について調査し、木質バイオマス利用推進のための基礎資料とした。

### ウ. 林地残材等収集トライアル事業

松野町が実施した「森の国まきステーション」を拠点とした薪活用のネットワーク構想に対して支援している。



森の国まきステーション開所式(10/27)



まき用間伐材等の搬入状況



まき収集状況



松野中学校でのエコストーブ普及啓発(2/17)